

經濟論叢

第九十三卷 第六號

低開發国の諸問題	松 井 清	1
シェーカーズ	穂 積 文 雄	19
社会主義社会の性格について	木 原 正 雄	41
企業理論と投資理論 (一)	山 田 保	61

昭和三十九年六月

京 都 大 學 經 濟 學 會

シェーカーズ

穂積文雄

九

われわれは、いま、ようやく、シェーカーズの組織をうかがう時点に到達した。そこで、これから、それをこころみようとおもう。しかしながら、そのためには、まづ、かれらの教義そのものをあきらかにせねばならない。なぜなら、シェーカーズは、もと、宗教団体である。団体である以上、そこに組織がかたちづくられる。それは、あたりまえのことである。なんらあやしむをもちいぬところである。だが、それは、その宗教団体である。しかるに、おおよそ、宗教団体はその教義のためになりたつものである。教義あつての団体である。だから団体の組織は、もと、その教義にもとづく。そのことは、いうまでもないところである。これをたとえれば、身体と衣服のごときものである。そういつてもよいであろう。この場合、教義はなお身体のごとく、組織はなお衣服のごときである。身体あつての衣服、身体のための衣服である。それとおなじように、教義あつての組織、教義のための組織であるはずである。衣服は身体にあわしてつくられる。同様に組織は教義にに応じてかたちづくられる。だから、シェーカーズの組織をうかがうわれわれのこころみは、まづ、その教義をうかがうことからはじめられねばならない。

それでは、それは、いかにあるか。

シエーカーの教義については、これまでみだたところである。もともと、シエーカーは、一つの宗教団体である。一つの宗派である。そして、われわれは、これまで、そのなりたちをうかがって来たのである。一つの宗教団体、一つの宗派のなりたちをうかがうにあたって、その教義にふれないで、それをこころみることができない。それは、いうまでもないところ。したがって、われわれは、すでに、これまでにおいても、それにふれなければならなかった。そして、実際、それにふれてきている。それなのに、われわれは、いま、あらためて、ここに、それをうかがおうとする。それは、なぜか。それは、こうである。

なるほど、われわれは、これまでにも、シエーカーの教義にふれてきた。それは事実である。しかしながら、それは、シエーカーのなりたちをうかがうにあたって、その必要上、そうしただけにすぎない。そのことも、また、事実である。したがって、それは、付随的に、そうしたにとどまる。それ自体を目的として、そうしたのではない。もとより、それでも、シエーカーの教義にふれたことには、ちがいない。だから、そのかぎりにおいて、シエーカーの教義がうかがえたわけである。そういえば、そのとおりとも、いえよう。しかし、そのことは、いま、ここに、あらためて、それを、それとして、それ自体を目的として、うかがうことを、無意味なものと化することにはならないであろう。それが、一つの理由である。しかしながら、理由はそのみではない。およそ、一の宗派の教義は、その宗派の発展とともに発展し、そして、確立する。それが普通である。シエーカーといえども、その例にもれるものではない。そして、それは、さきそのなりたちをうかがうおりにふれておいたごとく、一七九二年のことである。そして、そこでは、わたくしは、確立したという事実を指摘するにとどめておいた。いかに確立したか、その内容にたちいることは、しないでおいた。それは、そこでは、なりたちをうかがうに急であって、そうするいとまがなかったからで

ある。しかし、そのゆえからばかりではない。それは、いづれ、あらためて、教義それ自体を、うかがうときのあることを期していたからでもある。そして、わたくしは、いま、ようやく、ここに、それをこころみるときに到達したわたくしをみいだすとおもうのである。それが、いま一つの理由である。そこで、わたくしは、ここに、あらためて、あえて、シェーカーの教義を、うかがわねばならない。

それでは、シェーカーの教義はいかにあるか。

それについては、ノルドホフ氏が、すでに、つきのごとく要約している。

一、神は男女両性の一の人格である。アダムは神にかたどりてつくられたがゆえに (Being created in God's image) 一の両性の人格であった。そして、性別は永遠であり、心霊自体に内附する (inheres in the soul itself)。そして、男性および女性でない天使または心霊 (angels or spirits) は、存在しない。

二、キリストは聖霊である。そして、その最高なものの一つである。それは、最初、イエスにおいて男性としてあらわれ、後、アン・リーにおいて、神における女性の要素を具えてあらわれた。

三、人類の宗教の歴史は四週期 (four cycles) に分かれたる。その四週期は、また、霊の世界 (the spirit world) において、あらわれ、おのおのに、それぞれの天国と地獄がある。第一期は大洪水前アンチディレクティブをふくむ。——そしてノアと信仰あつきひとびとは最初の天国に行き、その時代におけるよこしまなひとびとは最初の地獄に行った。第二期はキリストの出現までのユダヤ人をふくむ。そして、第二番目の天国は樂園ユダヤイムとよばれる。第三期はアン・リーの出現にいたるまでのすべてのひとびとをふくむ。

そして、ポールは第三番目の天国にすくいあげられた。第四番目の、そして最後の特免 (the last dispensation) の天国は、いまつくられつつある。そして、それは、やがて、これまでのすべての天国にとってかわることになっている。かれらはいづ。イエ

スは、その死後、最初の地獄にくだり行き、そこにどごめられてゐるひとびとに説教をした。その途中、第二の天国すなわち樂園をすぎ、そこで、かれとともに十字架にかけられたぬすびとにであつた、と。

四、かれらは、みづからを「最後の特免の教会」(The Church of the Last Dispensation)と主張する。そして、かれらは「審判の日」(the day of judgment)ある日は「地上におさるキリストの王国の始期」(beginning of Christ's kingdom on earth)はかれらの教会の設立の日からはじまり、その發展によつて成就される、と、信する。

五、かれらは、ペンテコスタル・チャーチ(Pentecostal Church) (訳者注、新訳聖書・使徒行伝・第三章、とくに、四四一四七参照)は、ただしい諸原理の上になつて建てられたものである、もうもうのキリスト教会は、はやくそれより逸脱した、そして、シエーカーのひとびとが、この本来の完全な教理とその実践にたちかへつた、と、主張する。かれらは、いふ。「ペンテコスト・チャーチ(Pentecost Church)の五大実践原理(The five most prominent practical principles)は、第一、共産、第二、独身、第三、無抵抗、第四、孤高体制、第五、治癒力。(first, common property; second, a life of celibacy; third, non-resistance; fourth, a separate and distinct government; fifth, power over physical disease)」と。最後のもの以外は、かれらは、みな、これに到達し、そして、最後のものを、かれらは、自信をもつてもとめ、いまでも、すでに、主張している。やまゝは神への冒瀆よりきたる、ゆえに、ひととはやまゝにかからない力をもつ、問題は、かかつて、かれらの意志にある、と。

六、かれらは三位一体(the Trinity)復活(the bodily resurrection)をよび贖罪(the atonement for sins)の教説を拒否する。かれらは、イエスを、アン・リーをも、礼拝しない。ただ単に教会におけるかれらの長者として、あがめ、愛するべきものとするだけである。

七、かれらは降神信者である。(かれらはいふ。一訳者補足)

「われわれは交霊・霊媒をよび導霊・降霊(spirit communication and interpositions, spirit guidance and obsession)を

完全に確信する。われわれの降神信仰主義スクリプチュアリスティックにより、われわれは、かつてこの世に生をうけたことのあるひとごと、はなしあうことができる。そのひとごとの中には、われわれのよくしっていたひとともいる。また、大洪水以前に生をうけたひとごととも、はなしあうことができる」。かれらは断言する。いわく、最初はもろもろの神霊がかれらのなかではたらいた。しかし、のちにいたっては、かれらがもろもろの神霊のなかではたらいてきた。そして、下界(lower heavens)にあっては、シェーカーの教会がたくさんつくられた。」と。ちやうど、「とへへ」の恩寵(special inspired gifts)は、なくなりほしないで、いま、なお、このひとごととのなかにつづいている。」と。上述せるところより、つぎのことがでてくる。それは、すなわち、かれらは靈界(spirit world)にこの状態のあることを信じている、ということである。

八、かれらは主張する。けがれとつみがまったくない生活をおくるひとこそが、真の神のしもべである、と。そして、かれらは、つぎのごとく、つけくわえる。この完全無欠な生活に、かれらのなかまは、みな、到達しなければならぬ、と。

九、最後に、かれらは主張する。かれらの教会、かれらのいうところの内奥の、いいかえれば神の、秩序(Inner or Gospel Order)は世界、すなわち、かれらのいうところの外部の秩序(Outer Order)によってささえられ、補充される、と。かれらは、結婚と財産を、罪悪あるいは違反とはみない。しかし、社会のひくい段階のあらわれとみるのである。そして、かれらは主張する。一般世界、いいかえれば、外部の秩序には、現世においても来世においても、浄化の機会がある、と。

それは、よく、シェーカーの教義の特徴のあるところをとらえていると、いってもよいであろう。わたくしは、かならずしも、それを否定しようと、おもうものではない。しかしながら、それは、簡条書の形式によっている。そのためか、断片的のきらいあるをまぬがれぬ。全体としての統一にかけているうらみがのこる。そこに、あきたらぬもののあるをおぼえざるを得ない。そこで、わたくしは、わたくしなりに、いささか、シェーカーの教義を要約したい。

それで、それを、こころみてみる。すると、つぎのごとくなる。

ひとは罪の児である。罪の根源は肉欲の充足に存する。罪は罰せられねばならぬ。だからひとの児は罰をうけねばならぬ。だが神は慈愛ぶかくあらせられる。だから、神は、ひとの児をすくいたまう。そのために、神はキリストを降臨させたまう。だから、キリストは神のあらわれである。しかるに、神は男女の両性をそなえたまう。そして、キリストは、まづ、男性において降臨した。それがイエスである。しかるに、その効果は完全でなかった。そこで、キリストの第二の降臨をみることとなる。キリストの第二の降臨は女性においてなされた。これがアン・リーである。

そして、それにおいて救済は完遂をみることとなる。なんとなれば、女性こそ、救済にふさわしい性であるから。そして、救済にあづかるひとびとは、シェークする。それは神が浄罪は震動においておこなうといわれた予言のあらわれである。かくて、アン・リーによる神のあかしを信仰することにより、ひとは、最後の審判の日に、罪をゆるされ、罰をまぬがれ、すくわれて千年王国に生きることができぬ。

註(1) 拙稿「シェーカーズ」(イ)、本誌・第九二卷・第二号(昭和三八年・八)同、(ロ)同、第四号(昭和三八年・一〇)同、(ハ)、本誌・第九三卷・第二号(昭和三九年・二)等

(2) 拙稿「シェーカーズ」(イ)、本誌・第九二卷・第四号(昭和三八年・一〇)
 (3) Charles Nordhoff, *The Communist Societies of the United States*, New York, 1875, pp. 132-134

われわれはシェーカーのひとびとの組織をみようとした。そして、そのためには、まづ、その教義をあきらかにせねばならぬことをした。そこで、その教義をみた。しかしながら、教義から、ただちに、組織が出て来るものでは

ない。教義は、まづ、実践にうつされ、実践に際して団体が生まれ、団体において組織がかたちづくられる。それがものの順序というものである。それでは、この教義はいかに実践にうつされたか。いいかえれば、この教義からいかなる実践原理が出てきたか。われわれは、まづ、それからうかがわねばならない。

おもうに、実践は行動においてある。しかるにひとの行動は多岐多端、複雑にして、かつ変化する。それは、まことに、端倪するをゆるさぬものである。したがって、いま、シェーカーの教義の実践といつても、それは、無限な多様性においてあらわれるはずである。したがって、その原理といつても、それを一々とらえ、しるすことは、ほとんど、不可能にちかい。いな、その意味では不可能といつてよいでも、あろう。しかしながら、そうはいうものの、われわれは、その中において、おのづから、比較的重要なものをあげることが、できるし、それは、また、ゆるされるところでもあろう。すくなくとも、わたくしは、そう、おもう。そして、そのようなものとして、たとえば、つぎの「ごときものを指摘しているひともある。いわく、「言行のすへてにおいて正直・誠実なるべし」(honesty and integrity in all words and dealings;) いわく「友にも慈愛・親切をもてす」(humanity and kindness to friend and foe;) いわく、「(ご)ごたは勤勉」(diligence in business;) いわく、「慎重・節約・儉約・質素」を旨とすべし、ただし「吝嗇は不可」(prudence, temperance, economy, frugality, but not parsimony;) いわく、「負債すべからず」(to keep clear of debt) 「ごごまには適切な教育 (suitable education of children)」。そして「これらは、みな、シェーカーのひとびとの実践行動においてみられるところである。わたくしは、それを否定しようとはおもわない。しかし、これらのものは、いづれも、かならずしも、シェーカーのひとびとにおいてのみみられるところのものではない。他の一般のひとびとにおいても、みられるところである。すくなくとも、キリスト教徒において

は、あたりまえの実践原理といつてもよいであろう。とくに、シエーカーのひとびとの実践原理として指摘するのは、いかがなものであろうか。それに、これらのものは、かならずしも、さきにみたシエーカーの教義から直接・必然にみちびき出されたものとは、いいがたい。そこで、われわれは、さらに、かれらの特徴づける実践原理、そして、さきにみた教義から必然にみちびき出されるところの実践原理をもとめないでは、いられない。それでは、それはいかにあるか。わたくしは、そのようなものとして、四つのもをあげることができる。いわく、ざんげ、いわく、独身、いわく、遁世、いわく、共産。

けだし、まづ、罪の子が罪からゆるされんとすれば、まづ、罪の自覚がなければならぬ。それはいうまでもないところといつてよからう。そして、その罪をすっかりはきだしてしまわなければならぬ。そうした上で、はじめて神のみむねを行ふことができるというものである。そうした上で、しりぞいて罪から遠うざかり、すすんで善にはげむことが要求されることになる。かくて、上述のかれらの教義からすれば、ざんげ、ざんげ、ざんげがかれらの実践原理となるは、まさに、さもあるべきところでなければならぬ。そして、事実、それは、そうなっている。そのことは、これまでみたところよりしても、すでに、あきらかなるところである。しかしながら、さらに、いっそう、それを、あきらかにするために、つぎの引用をもつてすることも、かならずしも、その意義なしとは、しないであろう。

ここで、わたくしが引用しようとするのはマクドナルド (A. J. Macdonald) というひとの友人がしるしたところのものである。かれはそのひとの名前をしめしていない。しかし、かれは、そのひとのことを「尊敬する親友」といい、「シエーカーのひとびとのなかにはいって行つた。そして、かれのはなしはきわめて明晰であり、誠実である」といつている。いま、それによれば、そのひとは、一八四二年より三年にかけての冬、オーターブリートのシエーカー

「ソサイエチーをたずねる。かれは、そこで、長老 (Papst) にあう。そして、こうしるしている。

かれはわたくしにいった。わたくしの最初の武錬は、わたくしがこれまでにおかしたすべてのあしきおこないをさんげすることである、と。わたくしは、かれに、かれがカトリックの僧侶のように赦免してくれるかどうか、と、たづねた。かれはこたえた。つみをゆるすのは神である、かれらではない、しかしながら、救済のしごとをはじめるにあたって、すべての過去のつみを「ごころからはぎだしてしまおう」(to unburden the mind of all its past sins) ことは必要なことである、と。……

……数日後、わたくしは再生を開始し、さんげのこころがまえをするように、といわれた。いつでもさんげするこころがまえができているむねをつたえると、わたくしは、内密のさんげの部屋につれてゆかれた。そして、そこで、わたくしは、わたくしの過去の経歴を、ひととおりに、くわしく、はなした。長老は、それに満足したようにみえた。そして、わたくしが「それほどわるい人間ではない」といった。わたくしは、「はい。さようです。わたくしは犯罪や放蕩には、これまで、あまり縁がありませんでした」と、こたえた。しかし、この老人は、わたくしがかれをあざむこうとしていたのでないことを、たしかめるために、悪事を全部さんげせず、たちかえつてきて、一切をぶちまけるまで、やすらぎとたのしさを得ることのできなかつたひとびとのことをはなすことによつて、わたくしをおどそうとこころみた。かれは、さらに、いかなるわるいひとでも、ここでは、いつまでもばれずにすむということは、ありえない、と確言した。……

ついでながら、シェーカーのひとびとにおけるさんげは、ひとり、入団のときにおいてのみ、もとめられるものではない。それは、入団後においても、しばしば、もとめられる。しかしながら、それゆえに、それは、かれらの日常の行事といつてもよいくらいである。したがつて、わたくしは、それについては、さきに行つて、日常生活をうかがう

ときに、それにふれるを適切とかがえる。だから、いま、ここでは、これ以上それにふれない。それでは、なぜ、いま、ここに、それを、もちだしたのか。そういぶかるひとがあるかもしれない。だから、そういうひとびとにこたえておこう。それは、それほどごんげがこれらの実践原理において大きな比重をもつことを、あきらかにするのに、すこしでも、役に立てばと、おもうからに、ほかならない、と。

つぎに、シェーカーのひとつとは、つみの根源的なものを、肉欲の充足においてみいだす。そのことは、われわれの、これまでも、しばしば、みてきたところのごとくである。それなら、いま、それが、実践原理にうつされるとき、それが、独身生活をまもることの要求となつて、あらわれてくることは、理の当然というものでなければならぬであろう。あえて弁をくわえるまでもあるまい。そういつても、さしつかえはないであろう。そういつてしまえば、もとより、そのとおりであり、それまでのことである。しかしながら、ことは、きわめて機微にわたるものあるを、いながたい。それは、人間にとって、きわめて重大かつ微妙な問題を、蔽する。それだけに、それは、シェーカーのひとつとの実践原理の中でも、きわめて大きな意義を、もつ。したがって、そう簡単にかたづけけるわけにはいかぬ。そうも、かんがえられるであろう。そして、それは、たしかに、そのとおりである。わたくしといえども、それをみとめないわけではない。また、それなればこそであろう。シェーカーのひとつとは、この原理については非常に意をはらっている。そのことは、これらの生活様式の上に、まざまざとあらわれている。まことにこれらの生活様式はこの原理の上に打ち立てられているといつてもよいくらいでさえある。すくなくとも、これらの生活様式の支柱の一つはこの原理にはかならない。そういつても、いいすぎにはならないであろう。だとすれば、われわれは、この実践原理の詳細は、その実践の組織体制の中に、その実践それ自体の中に、もつともよくうかがうことができるし、また、

うかがわねばならぬところである。そう、おもわざるを得ない。だから、わたくしは、いま、ここでは、この問題について、これ以上、たちいらぬで、さきにすすむであらう。

さて、そのつぎは、遁世であるが、およそ一の宗教団体は、始祖をめぐりて信徒があつまり、むすびつくことに依りて、なりたつ。しかるに、かれらがむすびつくということは、そのかぎりにおいて、それだけ、かれらが、かれら以外のひとびとよりはなれることを意味しなければならない。そういってよいはずである。それは、いなむあたわざるところとおもう。そして、かれらのあいだのむすびつきがつよければ、つよいほど、それだけ、他からはなれることも、そのはなはだしさをくわえることになる。それは勢の自然である。そして、勢といえ、逆に、こうして、他とはなれることがはなはだしきをくわえれば、くわえるほど、それだけ、また、かれらのあいだにおけるむすびつきは、いっそう、つよくなる。かくて、因は果となり、果は因となり、勢は勢を生じて、ますます他からはなれることになる。宗教団体には、もと、かくのごとき、傾向がある。そういって、よいとおもう。そして、いま、われわれの問題とするシェーカーのひとびとも、また一の宗教団体にはかならない。したがって、かれらも、その傾向をもつてである。かれらといえどもその例外をなすものではあり得ないはずである。そして、事実、そうであることは、われわれのすでにみてきたところよりして、あきらかなるところのごとくである。あらためてのぶるまでもないところに属する。しかも、かれらシェーカーズのひとびとの場合、ことは、ただ、それだけにとどまらない。かれらは狂信的である。その狂信に馳せるや、その行うところ、奇矯に失し、操狂に流れ、他のひとびとの鑿鑿をまねき、軽侮をこうむり、ついに、異端視され、擯斥を買い、そのはなはだしきにおよんでは、罵詈・凌辱・暴行・迫害にさらされるにさえ、いたっている。世にいらぬことも、また、きわまれり、と、いってよからう。しかも、世にいれられぬと

いえば、なお、その上に、そのセリバシーの教義がある。それが世にいれられぬ一因、しかも、その重要な原因の一つである。そのことは、われわれのこれまでみたところよりして、容易に理解しうるところのごとくである。しからば、かれらが、世をさげ、ひとをはなれ、かれらだけの社会をつくる方向にすすむとしても、われわれは、なんら、それをあやしむべき根拠をみいだすことは、できないであろう。いな、それは、むしろ、水のひききにつくがごときもの、ことは、きわめて、自然というべきであろう。かくて、ここに、かれらがその実践原理として遁世をかかげるをみることとなる。

ところで、遁世して、かれらだけの社会がかたちづくられると、かれらのむすびつきは、いよいよかたく、ますますつよく、なる。それにふしぎはない。かくて、かれらのむすびつきが、いよいよかたく、ますますつよく、なると、やがて、自他の別はうすれてゆく。それは、あやしむにあたらぬであろう。自他の別がうすれてゆけば、そのむすびつきは、一家のそれにちかづくであろう。しかるに、一家にありては共産的なムード、機構が濃厚である。いな、共産といっても、よいであろう。法律上はともかく、日常の現実からすればそういっても、かならずしも、いいすぎのそしりをこうむることはない、ならないのではなからうか。かりに、それが否定されるとしても、すくなくとも、自他の別がうすくなることは、たしかである。そして、そのことが財産についてあらわれるときそこに共産のかたちがでてくることは、いなめないことになるであろう。かくてシエーカーのひとびとの間に共産が実践の原理としてそのすがたをあらわすのを見ることになる。そうみてよいであろう。すくなくとも、わたくしは、そうみるものである。もつとも、エベレット氏は、シエーカーのひとびとが共産原理をとりいれたのは、シールドラックのひそみにならったものである、と、いつていられる。そのことは、さきに、ふれたとおりで、ある。エベレット氏は、そのおりに、

いっておいだごとく、⁵⁾ 貴重な原資料を渉獵してその上にその説をたてられたものごとくである。わたくしは、ここに、かるがるしく、それをいなむがごとき言をなそうとするものではない。エベレット氏が、そう、いわれるには、それだけの理由があるのであろう。だが、それにしても、だからといって、シェーカーのひとびとの内に、それをうけいれ、あるいは、それをとりいれるに、ふさわしい、いな、もつともふさわしい条件があったことをいなまねばならぬ理由はあるまい。すくなくとも、わたくしは、そのような理由をみいだすにくるしむものである。いな、わたくしは、おもう。シェーカーのひとびとの内にそのような条件があったればこそ、かれらは、シェードラックのなすところをみて、これをとりいれることにもなったのであろう、そして、それが一応成功したのは、かれらの内に、そのような条件が、すでに内在していたからだ、かんがえられるのではないであらうか、と。

なお、シェーカーのひとびとの実践原理における共産のそれをうかがうとき、われわれのみおとすことをゆるさぬものに、新約聖書・使徒行伝、とくに、その第二章があることを指摘することを、わすれるわけにはゆかない。ただし、そこにしるされたところは、まさに、シェーカーのひとびとの信仰に、はなはだしく通ずるところのものがあると、おもわれるからである。こころみに、その一端を引けば、つぎのごとくである。

一 五旬節の日となり、彼らみな一処に集ひ居りしに、²⁾ 烈しき風の吹きたるとき響、³⁾ にはかに天より起りて、その座する所の家に満ち、⁴⁾ 三 また火の如きもの舌のやうに現はれ、分れて各人のうへに止まる。……¹⁴⁾ 爰にペテロ十一の使徒とともに立ち、声を揚げて宣べて言ふ『ユダヤの人々および凡てのエルサレムに住める者よ、汝等わが言に耳を傾けて、この事を知れ。……¹⁶⁾ 十六 これは預言者ヨエルによりて言れたる所なり、¹⁷⁾ 十七 「神いひ給はく、末の世に至りて、我が靈を凡ての人に注

がん。汝らの子女は預言し、汝らの若者は幻影を見、なんぢらの老人は夢を見るべし。十八 その世に至りて、わが僕・婢女に、わが霊を注がん、彼らは預言すべし。十九 われ上は天に不思議を、下は地に徴を現さん、即ち血と火と煙の氣とあるべし。二十 主の大なる顕著しき日のきたる前に、日は闇に月は血に變らん。二一 すべて主の御名を呼び頼む者は救はれん。……三十七人々これを聞きて、心を刺され、ペテロと他の使徒たちと言ふ『兄弟たちよ、我ら何をなすべきか』ペテロ答ふ『なんぢら悔改めて、おのおのの罪の赦を得んためにイエス・キリストの名によりてバプテスマを受けよ、然らば聖靈の賜物を受けん。三十九この約束は汝らと汝らの子らと凡の速き者、即ち主なる我らの神の召し給ふ者とに属くなり』四十 この他なほ多くの言をもて証し、かつ勸めて『この曲れる代より救ひ出されよ』と言へり。四一 斯くてペテロの言を聴納れし者はバプテスマを受く。……四四 信じたる者はみな偕に居りて……

かくて、このかれらのあつまりが、やがて、ペンテコースタル・チャーチとよばれるものになるのであるが、はたして、シエーカーのひとつとは、ペンテコースタル・チャーチこそ真実の原理にもとづく主張する。しかるに、ここでは、実に、共産がおこなわれていた。そのことは、いま引用したところにつづいて、つぎのごとくしるされているによりても、これをしることができよう。

四四 信じたる者はみな偕に居りて諸般の物を共にし、四五 資産と所有とを売り各人の用に從ひて分け与へ、四六 日々、心を一つにして弛みなく宮に居り、家にてパンをさき、歡喜と真心とをもて食事をなし、四七 神を讚美して、一般の民に悦はる。斯くて主は救はるる者を日々かれらの中に加へ給へり。

こうみてくると、シエーカーのひとつが、ペンテコースタル・チャーチは真実の原理にもとづく、と、いうとき、その中には共産の原理もふくまれてゐるを知ることができる。そして、かれらが、ペンテコースタル・チャーチへ立

ちかえるものである、と、呼号するをきくとき、われわれは、かれらが共産を實踐原理とする根拠を、そこにもみいだすことができる、おもわないわけにはゆかぬことになるであろう。いづれにしても、かれらの實踐原理に共産がとられるということは、そのよってきたところ、きわめて、ふかく、かつ、とおいものがあることを、しらねばならないであらう。

註(1) Charles Nordhoff, *ibid.*, p. 134-135.

(2) John Humphrey Noyes, *History of American Socialisms, Philadelphia, 1870*, p. 597.

(3) *ibid.*, pp. 598-599.

(4) Everett Webber, *Escape to Utopia, The Communal Movement in America, New York, 1959*, pp. 50-51. 拙稿「シェーカーズ」
ヌ、(4)、本誌・第九二巻・第四号(昭和三八・一〇)

(5) 拙稿、シェーカーズ、(4)、附記・本誌・第九二巻・第四号(昭和三八・一〇)

(6) 拙稿、シェーカーズ、(4)、本誌・本号

(7) 同上

—

教義を行動にうつす場合、そこに、実践原理がなりたつ。そして、実践原理にしたがって行動するにあたって、ここに、団体がうまれる。団体がうまれるとき、やがて、そこに、組織がかたちづくられる。そして、その組織は実践原理、さらにさかのぼっては、教義に照応し、それらに適合するはずである。わたくしは、そうかんがえる。それなればこそ、わたくしは、これまで、シェーカーの組織をうかがうにあたり、まづ、しりぞいてその教義、その実践原理をうかがってきたのである。いま、わたくしは、いよいよ、シェーカーのひとびとの組織をうかがう位置にあるわ

たくしをみいだすわけである。しからばとう。シエーカーのひとつびとの組織はいかにあるか。

シエーカーのひとつびとの組織が確立したのは一七九二年といわれる。そのことは、すでに、しばしば、ふれておいたところのごとくである。そのときシエーカーのひとつびとの最高主宰者は、フアーザー・ジョセフとルシィ・ライトであった。そのことも、わたくしの、すでに、ふれておいたところのごとくである。実に、この年、かの女はシエーカーのひとつびとに説いて、これらの財産を売却してオータープリート、ハーバード、あるいはレバノン山に集合させた。そして、そこに、シエーカーの社会 (Shaker Society) 又は、シエーカーのむら (Shaker Village) を創建したのである。そして、それがその後のものの典型となったのである。だから、その後各地にできたものは、地方により多少の差異は存するとしても、大体、みな、おなじといつて、さしつかえはないようである。それは、すくなくとも二つの団体よりなりたつ。その団体を、シエーカーのひとつびとは、いみじくも、家族 (family) とよぶ。その一つは初心者家族 (Novitiate family of the junior family) とらわれるものであり、もう一つは教会家族 (Church family or the senior family) といわれるものである。ノビシエート・ファミリーは、その名のしめすがごときのものである。それは、やがて、チャーチ・ファミリーにすすむべきひとたちが、まづ、おくられ、きたえられるところである。より具体的にいえば、ここは、まだ外部の世界とのきづなを完全にたちぎっていないひとたちのおくられるところである。それは子供の教育、事業、あるいは配遇者の一方が財産をソサイエチーに献納することに承諾しない、というような事情により、依然として外部の世界とつながりのあるひとたちのおくられるところである。

チャーチ・ファミリーは完全に世俗を離脱し、外部の世界との交渉をまったくたぎったひとつびと、したがって、最高の霊的生活をおくる熱情にもえるひとつびとの行くところである。したがって、そこに在るひとつびとの交際は、な

かまうちだけにかぎられることに、なる。また、かれらの財産は、すべて、ソサイエチーに帰属している。

なお、はじめの間は、世俗に住むこともゆるされていた。それは、子供の教育、事業の必要、あるいは配遇者の一方が財産の放棄に同意しないというがごとき事情ある場合みとめられたものである。もつとも、この場合でも、セリバシーのおきてはかたくまもることが要求された。また、ノビシエート・ファミリーの長老 (elders or elderesses) が、ある程度の監視をおこなうことが必要であった。監視は文通と訪問によっておこなわれた。もつとも、ノルドホフ氏は、一八七五年にかれがあらわした書物の中に、「このようなメンバーは、いまも、なお、いることはいるが、以前にくらべると、そのかずは、ずっと、すくない」としている。

それから、シェーカーのことを知るために来る外来者・訪問者は、ノビシエート・ファミリーにうけいれる用意ができていた。ついでながら、ここに、しるしておく。

このように、シェーカー・ピリッジは、二つのファミリーよりなりたち、二つのファミリーはオーダーというか、クラスというか、をことにすることと上述のごとくである。しかし、その他は、おおむね、大同小異であると、いってよいようである。おのおのファミリーはいづれも、三〇人乃至九〇人よりなり、男・女、それに子供をふくむ。そして、それぞれのため、(unitary houses) をもつ。たゞものは住居 (dwelling house) とし、ごとき場、および、あつまりの家 (Village meeting house) と子供の家 (house for boys) よりなる。それらのため、木造または、レンガづくり、でなければ石造である。いづれも堅牢につくられていた。だから、今日でも、なお、残って居るものは、他の用途につかわれている。げんに、わたくしはケンタッキー郊外プレザント・ヒルにシェーカーのひとびとのあとを、たづねた。そのことは、さきにふれたところのごとくである。そこでは、かつてのたゞもののあるものは、いまは、あ

る会社がつかっていた。また、そのあるものは、レストランとなっていた。そして、わたくしは、そこで、快適な食事をとることができた。わたくしは、また、シエーカー・ビルリッジの最初のものの一つである本山ニュー・レバノンの跡にも杖を引いた。そこは、現在、一体として、ダロー・スクール (Darrow School) となっている。そして、当時のたてものは、校舎として、いま、なお大に役立っているのをみた。

住居は大きな二階だてである。階上は四人乃至八人を収容する室にわかれている。おのおの室には、すむひとのわずかだけの簡易寝台 (cots) 、必要なだけの洗面設備、小さながみが一箇と、かきものつくえが一箇とある。それに冬はストーブがそなえられる。椅子はかなりの数があるが、つかわぬときは壁に釘でかけるようになっていた。そして広いホールが男女の寮をへだてている。男女の別は、きわめて、きびしい。セリバシーを实践原理とするかれらシエーカーのひとびとのソサイエティーにおいては、それは当然といえば当然である。それにしても、そのきびしいことは、おどろくべきものがある。ことに日常生活のちいさなところまで、それは、およんでいる。しかし、それは、後に日常生活のところどうかうはづである。だから、ここでは、その点にはふれないで、さきへすすむことにする。床にはカーペットがしかれている。カーペットはいくつもの条よりなっておる。それは、床を掃除するに便利であることをかんがえて、そういうふうにしたものである。いろは、きわめて、おだやかなものが、えらばれている。階下は、厨房・食器室、いくつかの食糧貯蔵室、および、共同の食堂 (common dining hall) よりなる。ただし、さきに行ったノビシャート・ファミリーにおける外来者、訪問者の食事はこの食堂では供せられない。そのためには別室が用意せられている。

しごとばのたてものは、この住居をめぐって、たてられている。しごとばはしごとの種類にに応じて、いろいろある。

それは、いうまでもないところである。すなわち、つぎのごときものをあげることができる。シスターズ・ショップ。ここでは裁縫・かごづくり、および、その他、女性のしごとが、おこなわれる。ブラザース・ショップ。ここでは、ほうきづくり・しきものづくり、および、その他、男性のしごとが、おこなわれる。洗濯場・厩舎・果物小屋・櫛工場・製材所等々。

住居、しごとばのいづれをとわず、およそ、シェーカーのひとびとのたてものは、きわめて清潔なことをもってあらわれている。まことにかれらは清潔をおもんじた。そのことは、かれらを訪うものの、ひとしく称讚したところである。そして、ひとは、かれらが、その清潔を維持するため、いかに意をもちい、くふうをこらしたかを、しつて、感嘆のさげびをあげないではいられないであろう。床の掃除を考慮して、カーベットを敷条として置くことは、さきによれたところである。しかし、それはその一端にすぎない。たとえばストーブがあればかならず、そのそばには、ちいさいかごとちりとり (broom) がかかっており、そして、そのちかくには木のはこが置いてある。ドアのところには、スクレーパー、くつばげとマットがある。あなたはくつをみがかずにはおれない。もし、それ、道がぬかるみであったり、雪がつんでいるような場合には、たてものいりくちにかかっているはおき (broom) が、すかさず、あなたに、どろや雪をはいのけるように要求する。一事が万事、そういったぐあいである。だが、それで、おどろくのは、まだはやい。壁をみるがよい。およそ壁という壁は、いづこをみても、そこに絵をみいだすことはできない。それは、もとより、かれらが裝飾を悪とするにもよるところなしとしない。しかし、ただ、そればかりによるものではない。かくぶちがちりのたまるところとなるのをぎらうによるのである。寝台が簡易寝台 (cot-bed) であることは、われわれのすてにみたところである。ところが、これも、実は、うごかしやすく、したがって、掃除に便利だからなのである。そんな

ぐあいであるから、床は清潔なことテーブルのごとく、食事でもできるくらいである。ホールや食堂の床にいたっては、みがきにみがかれて、つやつやとかがやいていた。

たても、のほか、おのおののファミリーには、また、それぞれの農場がある。家畜もいる。

かくて、おのおののファミリーは、いづれも、それぞれ独立・自足自給をたて、まえとし、一家をなし、いわゆる共産生活をいとなむのである。ところで、それでは、それは、いかにいとなまれたのであろうか。

まづ、シニエーカーのソサイエチーにおいて、その最高の位置には、ミニストリー (Ministry) がある。それは三名以上よりなる。普通、四名で、男女二名づつである。そして、その中の一人が指導長老 (the leading elder) の位置をしめる。これはかれらのチャーチの中より、えらばれる。そして、前任の指導長老により任命される。その権威は全体の期せずして一致するところ (the spontaneous union of the whole body) において確立する。さきに、アン・リーの後、歴代の最高主宰者がその位置につく場合、神の恩寵と指導の指名がたれそれの上にあった、とか、指導の恩寵がたれそれの上におりたとか、それが、みなによって承認されたとか、いう表現をもちいたが、それは、そのおりにも付言しておいたごとく、シニエーカーのひとつとのしるせる、わたくしのよんでもって、年代記というところのものにおける表現にしたがったものである。そして、いま、ここで、その表現を想起するならば、このところの事情が、いっそう、あきらかとなるでもあろうか。そうすれば、また、その最高主宰者が、それにふさわしい、あらゆる徳をそなえたひとでなければならぬということも、おのづから、あきらかとなるであらう。

最高主宰者は、その下の役員を任命する権能をもつ。その役員には、主宰・長老・執事がある。最高主宰者は、また、長老とともに、適材を適所に指配置置することができる。ニューレバノンのソサイエチーは全体の中核である。

したがって、その主^{ヘイストリー} 宰は全体を主宰する理である。しかしながら、直接その権能のおよぶところは付近の教簡のソサイエチーズにすぎない。各地のソサイエチーは、それぞれの主^{ヘイストリー} 宰が任命され、その指配を受ける。もつとも、二つ以上のソサイエチーズが合してビジョップリックを形成し、一つの主^{ヘイストリー} 宰の監督の下に立つこともある。だが、普通には一つのソサイエチーはその主^{ヘイストリー} 宰をもつ。

つぎに、一つのファミリーには二人のエルダーがいる。一人は男性であり、いま一人は女性(elderess)である。かれらはファミリーにおける精神面を担当し、教へ、導くことにつとめる。ファミリーには、さらに、いく人かのデューコンがいる。デューコンも男性と女性(Deacons)よりなる。かれらはファミリーの運営を支援し、かつ、内にありてはメンバーの従事する産業の指揮に任じ、外にありては外部世界の産業に従事するものとの交渉にあたる。デューコンの下に監督(care-takers)なるものがある。これにも男性と女性がいる。かれらは、それぞれのしごと¹¹ におけるかしら(foremen or forewomen)である。そして、かしらの下に一般のメンバーがつづくのである。

すべてのメンバーは、平等であり、その能力に応じてはたらく。そして、利害を共にする。だから、みんな、かれらの手で、かれらじしん、および、おたがいの、相互の安楽・利益のために、また、ソサイエチー、または、じぶんの属するファミリーの一般的利益のために、やくにたつ、なにかのしごと¹² をする。ミニスターズも、エルダーズも、デューコンズも、みな、なんらかの手のしごと¹² にはげむ、例外はない。ただし、かれらのそれぞれの任務にともなう義務を遂行しているときは、このかぎりではない。

なお、ついでながら、おのおののソサイエチーの財産は、その、すべてのファミリーのそれを、あわせて、一つのトラスチーの名義で監理せられる。それは、そうするのが便宜だからである。この場合、トラスチーは、チャーチ・

